

仙台教区報

発行所 カトリック仙台教区事務所
 980 仙台市本町一丁目2番12号
 電話〇二二二一22一七三七一番
 編集・発行人 三浦 平三

“教育”における、教会の大きな責任

カトリック学校、幼稚園に協力して果そう

教区ではさいきん、幼稚園や小学校などカトリック教育施設が相次いで建物の改築を行つている。ここ二、三年で福島・桜の聖母、盛岡・白百合、仙台・聖ドミニコ、聖ウルスラ。幼稚園は八戸イメルダ、一関愛心、気仙沼カトリックなどが新装改築された。

これらは戦後の建物の老朽化や、都市計画の移転によるものだが、根底に教会の教育に対するなみなみならぬ決意があることも否定できない。事実、公会議文書「キリスト教的教育に関する宣言」によつて、教会は教育に関する責任を宣言し、カトリック学校の使命を明確にしている。

容易でないカトリック校経営

しかしカトリック学校にかぎらず、私学一般最大の現実的悩みは財政問題、入学者の確保といわれる。とくに義務教育の小学校ではきびしい。そのカトリック小学校が教区内に8校ある。ちなみに仙台教区の教育施設は、

短大3、高校8、中学校6、小学校8、幼稚園54。困難な経営にあたつては修道女方、教育に献身している教師、職員のご苦労を、教会は正しく評価すべきであろう。

教会の力となるカトリック校

疑いもなくカトリック学校や幼稚園の存在は、教区にとつて大きな力である。教会は、それらによつてより容易に、しかも数多くの生徒や父兄と接触する機会に恵まれている。入信動機の多くに、直接間接にカトリック教育施設があげられるのは周知のことである。福音宣教を使命とする教会は、有力な働き手であるカトリック学校や幼稚園を理解し、十分に機能を発揮できるよう配慮すべきである。その責任は直接かかわるものだけでなく、信者一人ひとりのものである。

信者はどのような協力を

一般に信者は、カトリック学校や幼稚園を

身近なものと考へている。しかし大方は子女が入れてもらえる恩典を願う、受身的な関心にとどまつてゐるようだ。協力の手はじめはこの関心を、もつと積極的なものに変へること。「み国の来らんことを」という同じ使命から、積極的に盛り立てることであろう。

具体的にはいろいろあるだろうが、たとえば若い男女青年が深い信仰と教育技術を身につけ、カトリック教育施設で働くことなどがある。いま働いてゐる信者が、積極的に学校や幼稚園に協力することは、いまでもない。

そのためには教会、修道会、学校、そして信者が、お互いに働きかけ、理解し、心を合わせる事が第一である。カトリック学校や幼稚園が健全に運営され、機能を発揮することは、そのまま教区の発展である。

司教日程

(6月16日現在)



- 7月3日 宮城県信徒大会(仙台)
- 4日、9日 司教会議(東京)
- 11日、12日 神学校常任司教委(東京)
- 17日 宮古教会堅信式
- 20日 社会福祉法人理事会(仙台)

'83年間目標

小教区教会に
 キリストの平和を!!
 (仙台教区)

△米司教団、平和の司牧教書成る▽

日本の教会にも重要な指針



さる5月3日、米司教団は二年越しの作業をへて、核時代の戦争と平和をめぐる道徳原則を採った司牧教書を採択した(詳細はカトリック新聞に毎週掲載された)。

①核戦争の道徳的正当性を否定するか、重大な疑問を示し
②新核兵器体系の実験、製造、配備の即時停止を訴えているからで、最終手段である場合以外の戦争を全面的に否定している。

レーガン政権の政策に真つ向から反対する教書は、五千万人以上といわれる米国の信者の教育文書ともなり、また全世界の教会の支

福島県カトリック連絡協

郡山教会で総会開く

さる4月10日午後、郡山教会に各教会代表24人が出席して開かれた。総会では57年度の事業ならびに会計報告、58年度の事業計画と予算の審議のほか各部会、広報部会、カナの会、福祉部会の報告および教区司牧評、一粒会、広報担当者の集いの報告も行われた。

58年度の事業計画は次のとおり
①特別聖年の意味をよく知り全員が聖年のお恵みに与るよう推進する

②各教会および教教会合同の地域教会は、聖

持を受け大きな影響を与えることが予想されている。現代の教会に極めて重大なものとして認識すべきであろう。

さらに私どもが忘れてならないのは、この反戦平和教書が、一九八一年教皇訪日の広島平和アピールに具体的に答えたものとなつて

キリストの平和を反戦、反核に結びつけるに戸惑う私たちに、ひとつの示唆を与えてくれよう。8月6日から15日までの平和旬間には、各小教区教会、地区などで具体的な平和促進の行事があるよう期待している。

年のための特別集会(典礼)、研修会、巡礼などを行うよう計画する(巡礼は団体で)
③今年度の県の集いは聖年特別集会とする
④教区司牧目標の実行を推進する

イ昨年度のテキスト「家庭に平和」をもういちど見直して実践につとめる
ロ58年度テキストは「小教区のキリストの平和」。近く配布されるのでその実行を心がける

今年の福島「県」の集い

日時 9月15日午前10時より

場所 福島市桜の聖母学院高校

テーマ 小教区におけるキリストの平和

講師 佐々木信夫氏 マザー・テレサの
もとで一年間ボランティアを体験
午後、皆が参加するリクリエーションの
大会、希望で話し合いの場ももうける。

宮城県信徒連絡協

司教出席して総会を開催

宮城県17教会の信徒代表者の連絡機関である、宮城県信徒連絡協議会は、昨年5月30日に設立されたが、さる5月22日、教区長佐藤千敬司教の出席を得て、仙台・元寺小路教会信徒館で定例総会を開いた。

総会は午後1時30分から始まり、新村信雄会長が「協議会はまだ出来たばかりで目立った動きはできないが、これから少しずつ実のあるものにしてゆきたい」とあいさつ。次いで佐藤司教は、「この協議会が宮城県の信徒の力の結集の原動力になり、この一年の働きのうえに神の豊かな祝福があるよう祈ります」と祝辞を述べた。議事に入り58年度の行事計画、同予算案の審議が行われ可決した。議案のうち本年度の宮城県信徒大会について話し合いがあり、前号掲載のように決定した。

なお本年度の役員は次のように選出された。

会長 新村 信雄(八木山教会)

副会長 大泉計一郎(大河原教会)

小野 英夫(一本杉教会)

事務局 渡辺 清(元寺小路教会)

教区司牧評議会評議員

篠野 満男(北仙台教会)

新村 信雄(八木山教会)

17回カトリック三校定期戦

白百合に司教から優勝杯

仙台市内にあるカトリック三校（仙台白百合学園高校、聖ウルスラ学院高校、聖ドミニコ学院高校）のスポーツ定期戦は今年で第17回を迎え、さる5月25日、宮城県スポーツセンターで催された。

三校定期戦は、三校の職員、生徒全員が同じ聖歌をうたい、祈りで開会するというユニークなもので、三校の姉妹関係とカトリック校の誇りを自覚するよい機会となつてゐる。

競技は県高校総体の前哨戦らしく、バレー、バスケット、バドミントン、テニス、ソフト、

感謝!! 感謝!!

全国からの善意に心から感謝

久慈教会から山火事救援報告がとどけられた。それによれば6月はじめ現在で、

●義えん金

カリタス・ジャパン	一〇〇〇〇〇〇円
長崎地区	一五〇〇〇〇〇円
教会、修道会	24件、一六〇、七五二円
個人、団体	15件、四三六、〇〇〇円
計	41件、四〇九、六七五二円

●物資 教会、修道会、団体、個人で54件
その他盛岡のカトリックセンターにも。
●活動 物資の一部は市へ、義えん金は久慈教会トマ神父信徒らで被災32世帯を見

卓球などに白熱戦が展開され、応援団の華やかな演出が花をそえた。

結果は熱戦のすえ白百合が2年ぶり、11度目の総合優勝をとげ、教区長佐藤千敬司教から司教杯が授与された。

来年の

広瀬川殉教祭は2月19日

仙塩地区教会代表者会議

さる5月8日、仙塩地区代表者合同会議の58年度総会が開かれたが、本年度の主催行事として次のように決定した。

① 定例総会

② 合同運動会（9月18日、ラ・サールホー

舞つて渡す。信徒は分担してお礼状書き。

* * *

今回は被災者が32世帯と少いため、衣類等の物資は多すぎたもよう。教会でも幼稚園ホールに溢れており、このことは今後の確な情報など配慮が必要なることを教えてくれた。しかし全国から寄せられた善意はすばらしく、貴重な体験を得て感謝していると伝えてきている。

仙台教区はこれまでチリ津波、十勝沖地震、宮城県沖地震と大きな災害のたびに全国の教会の方々から多大の義えん金が寄せられており、心からの感謝とともにその事実を深く心にとどめておく必要がある。あらためて感謝申し上げる。

ム・グランド

③ 仙台キリシタン殉教祭 59年2月19日、祭典（ロザリオ行進・ミサ）

なお、今年から宮城県信徒連絡協の主催となつた宮城県信徒大会を後援行事とした。

カナダから総長公式訪問

オタワ愛徳修道女会

5月29日、オタワの本部から総長アガタ・グラトン修道女と顧問ジャクリヌ・タンゼン修道女が来仙、東仙台の本部に6月20日まで滞在した。また総長らと同行して鈴木登美子修道女が2年間の勉学を終えて帰国した。同会では4月から新しく3人の入会者が修練をはじめている。

創立35周年を祝う

気仙沼カトリック幼稚園

昨年園舎を新築した気仙沼カトリック幼稚園（園長・土井勝吾神父）は、6月26日午前10時から創立35周年を祝う式典と祝賀会を行った。同園は昨年学校法人宮城カトリック学園として新発足をし、今回はその披露をかねたもの。東京からカトリック作家の田中澄江さんを招いて記念講演を行った。

『おねがい』ニュースをください

教区や教会や修道院、施設、学校での出来ごと、催しもの、話題など、どうぞ気がなるにお知らせ下さい。ハガキに一筆か、電話でも構いません。教区事務所の三浦神父まで。

教皇大使を迎えた

ことしの後藤寿庵祭



水沢教会 菊地 房子

晴天に恵まれた6月5日午前9時30分から水沢の後藤寿庵大祈願祭が行われました。今年には伊達政宗が教皇パウロ5世に、ソテロ神父の通訳で支倉六右エ門らの使節団を遣してから三七〇年。しかも贖いの特別聖年が宣言され、教皇大使マリオ・ピオ・ガスバリ大司教様を招いて盛大に寿庵祭を祝い、農民の働きのおかげに神の豊かな祝福を祈りました。

水沢市代表や地元農民をはじめ、岩手県はもとより教区内各地から五百人以上が福原の寿庵廟に集合。教皇大使を中心に14人の司祭が捧げるミサに心と歌声を合せて祈り、すばらしい雰囲気でした。

ガスバリ大司教様はミサの中で後藤寿庵をたたえ、キリスト者として生きるには強い勇敢な心が必要であり、よいことを行うためには少し位の困難は気にせず、自分のことは忘れてなすべきで、キリスト者とは大きな喜びをもって実践する人のことであると力づよく語りました。次いで今年の贖いの聖年のことと、今日のご聖体の祝日にもふれ、含蓄のある言葉に参加者は深い感銘を受けました。

ミサのあとアトラクションの踊りを楽しみました。終つてから、寿庵せきめぐりをし、その昔、寿庵が自分の財産を投げうって、胆沢平野をうるおすために苦労したことをしのび、感激をあらたにしました。

米川………キリシタン殉教祭………

地元米川に伝えられるキリシタン殉教者の霊を慰め、信仰をたたえる殉教祭が、さる5月15日午前11時から殉教地三経塚(三か所あるうち今年には朴ノ沢塚)で行われ、信者および地元部落民ら80人が参加した。今回は特別聖年の行事として、一関教会および仙台からも司祭や修道女、信徒が巡礼をし、鷹鷲達衛神父、ジョリコール神父、高橋昌神父の3人によつて野外ミサがささげられた。

暁星園、増築で

定員56人にふえる



教区経営の特別養護老人ホーム「暁星園」(仙台市安養寺、園長・本間重治神父)では昨年末から施設改善を含む新棟増築工事を行ってきたが、さる3月完成、4月から利用を始めた。新棟の面積は一四四・〇九平方メートル、5室(4入室2、2入室1、個室2)でベッド数は12。その結果長期の入所定員は50人から56人となった。また特殊浴槽が2台になり、一段と設備が充実した。

暁星園も、隣接の軽費老人ホーム「あけの星荘」も評判がよく、入居希望者が何人も順番を待っている状態である。今回この二つの施設の間、老人ホームの保護者として純白の無原罪聖母像が置かれ、いつそこのカトリック的雰囲気をかもしている。

【おしらせ】

仙台教区特別聖年「長崎巡礼」募集

8月14日より18日まで(4泊5日)

(長崎、出津、平戸、山口、津和野)

定員45人 費用13万9千円(仙台発着)

締切りは7月14日、申込金3万円

申込みは教区事務所 三浦神父まで。

詳細は各教会に配ったパンフレット参照。

YBU聖年巡礼団 募集

8月8日から15日まで。苫小牧―札幌―洞

爺―伊達―函館―青森―十和田―八幡平

定員25人 費用大人4万6千円、子ども3

万8千円。申込みは、仙台YBU文化セン

ター(電話 仙台61-5341)まで。

十エヴァリスト。パラン神父

(ケベック外国宣教会初代日本管区長)

さる6月13日カナダ・モントリオール市で心臓疾患のため急逝された。同神父は当時の教区長浦川和三郎司教に招かれて来日したケベック外国宣教会の初代管区長として、一九四八年から五七年まで在任、主に青森地区において宣教のため活躍、その後帰国した。

追悼ミサは6月20日午後6時より青森市本

町教会で行われ、青森県をはじめ各地の司祭

信徒が多数出席、永遠の安息を祈った。

“ありがとうございます”

たくさんさんの教会から教会報をいただいています。ありがとうございます。まだの所も是非送って下さい。待っています。

子供の声に 耳をかたむけよう

梅津 英久



子供はいろんなことを大人に尋ねます。なぜなら、子供の身の回りには、不思議なものが沢山あるからです。子供にとつて理解できないものを大人に尋ねます。大人は、子供が不思議だと思つたことは自分にとつては簡単なことなので、すぐに答えを教ええます。そこで子供は、「すごいな」と感心します。しかし子供がすぐに答えられない質問をすると、大人はどうするかというと、ウソをつかなくてはならなくなります。また、子供の質問に答えないうで、ごまかしてしまいます。そこで子供はどう思つかうかというと、大人に聞いてもウソばかりで、何も答えてくれないと思ひこむわけです。

子供が何を知りたがり、何を求めているのかを理解できるのは大人だけです。けれど、大人はそうして欲しいか。

子供の声を聞いていて欲しいか。

現代において何を子供達は信じたいのか分からなく、何に価値感を見つけたらいいのかはつきりしない今こそ、信仰が必要ではないかと思ひます。

神様はいつも私達の声を聞いて下さっているように、私達も子供達の声をいつも聞いてあげられるように心がけたいと思ひます。

(東仙台教会所属)

子供・教育

「若者の声」

教育問題を考える

小川 晴美
(元寺小路教会所属)



20世紀は、見える世界を探究する科学技術が人間の目と心を吸い着けて、指導力を強大にしてきた時代である。その結果として、経済力が何よりも優位を占める価値となつてきている。見えないものの真の価値が小さくしか見えなくなつて来ている。

教師は子供を評価するためにテストを行う。点数をつけねばならない。しかし点数イコールその子供ではなく、点数をつけられる分野についてのみ、その点数なのである。想像力や創造力などは、点数になるのだろうか。受験勉強ともなれば、生命のない知識だけをつめこんで、記憶力だけをその子供の評価にするのである。覚えさせる知識がありすぎて、子供が消化不良をおこしているのに気がつかない。そして何のために勉強するのか、何のために生きるのか、など点数化されない、しかし、重大な課題について考える時間はないのである。

エスカレートする校内暴力、非行は、教育・社会のひずみをうけた子供達の叫びであり、大人への挑戦である。それに答えてゆくのがそこまでおいつめた親、教師の義務であろうと思う。現代ほど、子供達が愛に飢えているときはないと思う。その子供を、そのままの状態を受けいれることが出発点だと思ひます。



音を尋ねて韓国へ。とのおもいで一週間の旅をしてきた。

ソウルとアンドンを中心に、教会と人との出会いの短い旅であった。都会と田舎、の対照的な町を巡る中で様々な音が聞こえてきた。

水に濁く、田畑のうめき。田植えの済んだばかりの水田に水が無い。汲み上げの発動機の音が妙に悲しい。

緑を求め、山の叫び。地肌が目立つ山また山。30数年前、一切の杉が伐採され、風雨に土が押し流され、植林しようにも土が無い。日本ではどこにでも見られる杉山を見ることは一度もなかった。

民主主義を求める、人々の沈黙の声。「韓国では何故こんなに求道者が多いのか」との問いを、出会う人毎に聞いた。

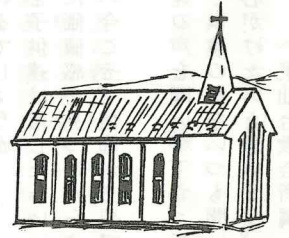
多くの人が次の答えを上げた。一九七〇年代、政治がメチャクチャであった時、カトリック教会が発言をした。「教会の中に何か真実がありそうだ」という印象を人々は持った、という。一見平穏に見える今も、同じ状態が続いている。ある教会はこの七年間に二千人から五千人の教会になったという。

それにしても韓国の人々は実に明るい国民である。

(狼河原)

おらが教会
(33)

宮城・米川教会



北上山地が南に尽きようとする山あいにも川がある。丸く、穏やかな山々に囲まれた小さな盆地に開けた集落。夜空の星が満天にこぼれ、澄み切った空気がことさら天空を近くしている山里。その静寂の里に私たちの教会がある。保育園の元気な子どもたちが帰り、よみがえった静けさの聖堂にぬかずけば、森閑とした深いしじまの世界に没頭して思うさま祈りができる。それが米川教会である。降誕祭近づけるわが山里に降るごとくそそぐ今宵の星は
落ちつかぬ夕べのころ平安を呼びもどし
たく聖書ひもとく
主イエスに祈りて朝の乳しぼる節くれし手に力こめつつ
ミサ聖祭はじまる前の静けさに深く息づくわがいのちなり
信徒の小野寺篤さんはこう歌いあげる。貧しくとも満ち足りた日々は教会によってもたらされたもの。この感謝の思いは小野寺さんのものではない。

都市部の教会が大勢を占める中で、農山村に建つ特異な教会としておらが教会が創立されたのは昭和30年。当時の教区長小林有方司教の熱意による。宮城県史編さん委員の調査で、当村に後藤寿庵の碑が発見され、さらに三塚殉教の悲史が明らかになったことから、キリシタンゆかりの地として小林司教みずからの手で布教活動が行われた。そしてこれに応じた老若男女数百人の多きが、教会建設を実現した。当時は部落のすみずみにもアヴェマリアの歌声がひびいたものである。

以来、洗礼の恵みを得たものは数年にして五百人を教え、司祭や修道女に召されたものも多い。渡辺昭一神父、首藤正義神父は当教会出身で、歴史は浅いがお恵みはとくに大きかった。歴代の主任司祭にも斎藤石雄神父、小野忠亮神父、深沢守三神父と教区の重鎮が就任、米川教会に寄せられた期待のほどが、いまさらのように思いおこされる。

こうした努力にもかかわらず、時の流れはいかんともし難く、若者たちの離村があいついだ。昭和45年には小林司教自らが、米川教会の主任をつとめられたが、激しい過疎の波に流されて、教会を支える信徒もいちじるしく高齢化し、布教活動は低迷の時期に入らざるをえない現況である。

現在私ども信徒は主任司祭高橋昌神父を中心に、互いの力不足を嘆き合いながらも、おらが教会がよって立つ意義と使命をはっきりと見据えようとしている。本当にささやかではあるが、質の向上を目指して努力している。

感謝の祭儀ミサを通して信仰を深めることはもちろんだが、われわれの大きなつとめは、殉教者のみ霊を賛えることでもある。

寛永の大殉教は米川教会巡回の大籠教会にかかわることで、数年前から八月の盆行事のひとつとして、「大籠キリシタン祭り」が地元に参加を得て行われている。享保の殉教地として伝えられている綱木沢の丘では、「三塚殉教祭」が毎年行われ、今年も特別聖年の巡礼の意味を含め、さる5月15日、さわやかな五月の薫風をうけて野外ミサがあった。

いづれも県内外から、司祭や修道女、信徒など多数の参加があり、盛大な殉教祭を祝うことができ感謝にたえません。

おらが米川教会は昭和30年7月10日の創立で、昭和55年銀祝を祝いゆかりの方がた多数参列していただいた。教会二十五年のあゆみを、「身もたまも」という小誌にまとめ、感慨ひとしおのものがある。今年の創立記念日から、後藤寿庵の墓前で野外ミサをささげることになっている。おらが教会は健全である。

(鈴木 松人)

【編集後記】

カッコウの季節になりました。仙台は寒暑定まらない梅雨入りですが、3年続きの冷夏はイヤです。暑い夏が待たれます。

若い人の目から子どもや教育のことを書いてもらいました。いま最も関心のあることです。問題の解決に即効薬はなさそうです。気長な努力がすべてに必要を要うです。

(M)